



豊寿大学入学・開講式



4月24日、平成29年度豊寿大学入学・開講式がえる夢館で行われました。昭和55年から続く豊寿大学は、現在まで831名が卒業し、今年は新入学生が2名、再入学17名、全77名が在籍しています。学べる教科は文学科や器楽科、社交ダンス科など8学科で、来年度には「歴史科」が増える予定。学長の菅原教育長は「健康に努め、自分の目標を達成してほしい」とあいさつしました。式の後オリエンテーションが行われ、1年間の活動計画などを確認し、午後から各学科に分かれて1回目の活動を行いました。

大津漁協青年部直販まつり



4月16日、大津漁協青年部（竹田真久部長）主催の第12回『大津漁協青年部直販まつり』が大津漁協荷捌所で行われ、大津前浜沖でとれた活きの良い『安心・安全・そして安い』魚介類を求め、多くの買い物客が詰めかけました。販売開始前から長い行列ができ、活ホッキやタコ足、ツブ貝など瞬間に売れていきました。JA豊頃町青年部からはホットココア、町商工会青年部からはカジカ汁が無料で振る舞われ、買い物客を終えた来場者が舌鼓を打っていました。このほかツブ貝などのレシピも無料で配られ、手にした買い物客から「さばき方が分かって助かった」と、とても喜ばれていました。

ひだまり交流館オープン1周年記念



4月9日、福祉活動拠点施設「ひだまり交流館」のオープン1周年記念イベントが行われました。同日限定の「地域食堂」には春休み中の子どもたちも大勢来場し、子どもたちを含め約120人が6種類のカレーライスバイキングを楽しみました。この地域食堂では、同協議会職員や調理ボランティアグループ「貴婦人の会」（松井貞子代表）、町内にある「喫茶ふわり」の協力で、子ども向けの「お子様カレー」やキノコがたっぷりの「健康カレー」、ホウレンソウ入りの「謎のカレー」などが振る舞われました。

第42回乳牛ジュニアショウ



4月11日、町乳牛改良同志会（杉岡慎也会長）主催の『第42回乳牛ジュニアショウ』がとよころ農業機械センターで行われ、月齢5か月から24か月未満までの未経産牛35頭が6部門に分かれて、体格の美しさや将来性を競い合いました。どの牛も大変素晴らしく、審査にあたった本別町の酪農家浜名剛広さんは、順位をつけることに苦労されていました。各部門上位2頭（全12頭）で競われた最高位および準最高位は次のとおりです。（敬称略）
【最高位】エルムランド メロー ブロカウ 2192 ET（山口雄峰）
【準最高位】ロードビュー アマンダ ファイ バンクX ET（山本雅樹）

ランドセルカバーを寄贈



4月4日、豊頃ライオンズクラブの鳥宮慶法会長が教育委員会を訪れ、町内の小学校に入学する児童の交通安全対策として、黄色いランドセルカバーを寄贈されました。鳥宮会長は「子どもたちの交通安全に役立てば」と願いを込めて菅原教育長に手渡しました。ランドセルカバーはビニール製で、「こうつうあんぜん」と書かれたデザインは、遠くからでも目につきやすくなっています。ランドセルカバーは、入学式で各児童に贈られました。

第22回豊頃地域コミセンまつり



4月2日、豊頃地域コミュニティセンターで、豊頃地域づくり協議会（相澤和幸会長）主催の「豊頃地域コミセンまつり」が開催されました。毎年多くの方が楽しみにしている行事のひとつです。出前講座では「高齢者の食育について」と題し、福祉課の野田栄養士が高齢者の陥りやすい食生活の危険性や健康を意識した献立作りについて講演しました。またホールではパッチワークやドライフラワーなどの店が並び、このほか恒例となっている「輪投げ大会」や「ビンゴゲーム」も行われ、訪れた皆さんは楽しいひと時を過ごしていました。

大津小でサケの稚魚放流



4月17日、大津小学校と大津保育所の児童が十勝川にサケの稚魚を放流しました。2月初めに卵から育て、大津小学校校内で約2か月間をかけて放流できる大きさにまで飼育したサケの稚魚、約250匹を教員らが協力して、同校近くにある十勝川まで児童たちと共にバケツで運びました。児童を代表して、6年生の島崎聖菜さんが、「5年後にサケはもどってきます。大きくなって帰って来てねと願いを込めて放流しましょう」とあいさつすると、5cmほどに成長したバケツの中の稚魚を紙コップですくい上げ、児童たちは稚魚に向かって思い思いの言葉を優しくかけながら川に放流しました。小学生は慣れたもので、紙コップですくっては放流を繰り返していましたが、保育所の子どもたちは初めての子も多く、恐る恐る稚魚を放流していました。最後に全員で「元気にもどってきてね」と声をかけ、サケの稚魚を見送りました。

